

727 學員三宅碩夫氏長逝

〔『法学新報』第32卷10(370)号 大正11年10月1日〕

○學員三宅碩夫氏長逝 中央大學學員弁護士三宅碩夫氏は九月八日病の爲め長逝せらる享年五十有八哀悼曷ぞ禁せん氏は慶應元年四月備中国浅口郡連島村に生る初め備中倉敷の森田塾に入り漢学を修む明治十八年岡山学校師範部に学びたりしが東都に出て中央大学の前身たる英吉利法律学校に入学し法学を研修して明治二十二年同校を卒業し直ちに弁護士試験に合格し爾來引続き弁護士の業務に従事し声誉大に揚る嘗て同志と共に日本弁護士協会を創立し最近迄て其の理事として同会の爲めに努力せらる氏は資性温厚篤実にして義侠に富み其の円満なる人格は世の等しく景仰する所たり又能く公共事業に尽し特に母校中央大学の發展に力を注ぎ校務に関する会合等は其の大小に拘はらず常に出席参与せられ殊に中央大學社員及び評議員として又基金部長として母校に尽力せられたり葬儀は九月十日午前十時より谷中斎場に於て施行せられたりしが朝野の名士二千余名会葬し盛儀を極む氏の性行閱歴等は岡野学長、花井博士の弔辞及び漫録欄に於ける実業家檜崎平太郎氏及び佐藤中央大學理事の追憶談に明かなれば略す因に葬儀当日岡野学長は左の弔辞を靈前に朗読せらる

大正十一年九月八日中央大學評議員三宅碩夫君病テ卒ス嗚呼

哀哉君杜ニシテ中央大学ニ遊ビ夙ニ俊秀ノ譽アリ業成リ弁護
士ト為ル前後三十余年至誠ヲ以テ一貫ス声望隆々タリ君母校
ヲ愛スルノ念深ク常ニ校門ニ出入シテ貢獻スル所頗ル多シ明
治四十年推サレテ社員ト為リ大正九年評議員ト為ル重要ノ枢
機参与セザルコトナシ先是大学令公布セラレ私立大学革新ノ
機迫ル君奮然トシテ此間ニ処シ作画大ニ努メ遂ニ今日ノ昌運
ヲ觀ルニ至ラシム中央大学ノ君ニ負フトコロ誠ニ大ナリト云
フヘシ去冬講堂増設図書館建設ノ挙アリ君率先之ヲ提唱シ今
ヤ其工將ニ竣ラントシテ忽チ君ノ訃ヲ伝フ嗚呼哀哉君資性温
良恭謙好テ人ト争ハス而モ毅然トシテ奪フヘカラサルノ慨ア
リ古人ノ所謂温玉ノ如ク剛鉄ノ如キモノ君ニ於テ始メテ之ヲ
見ル而シテ若人今ヤ即チ亡シ嗚呼哀哉恭シク蘋藻ノ典ヲ供ヘ
哀々ノ微忱ヲ君ノ靈前ニ効ス嗚呼哀哉尚饗

大正十一年九月十日

中央大学学長 法学博士 岡野敬次郎

又花井博士は中央大学学員会を代表し左の弔辞を朗読せられたり

畏友中央大学学員三宅碩夫君。逝ケリ。天碧ニシテ雲白。

嗚呼君何レノ処ニカ在ル。悲哉。恭儉之徳、怡々トシテ同人
ヲ徳化シタルモノハ君也。蹕厲之志、孜孜トシテ同人ヲ激厲
シタルモノハ君也。于公于私。此徳ヲ以テ立チ。此志ヲ以テ
行フ。死而後已。嗚呼君死セルカ。嗚呼君真ニ死セルカ。悲
哉。君人ヲ待ツニ誠ヲ以テシ、人我ヲ欺クト雖モ疑ハス。人
ノ善ヲ見テハ樂ンテ而シテ之ヲ称ス。誰カ景慕セサルモノア

ランヤ。嗚呼君死セルカ。嗚呼君真ニ死セルカ。君ノ音容今
猶目ニ在リ生ケルカ如シ。悲哉。夫レ徳ハ質実ナルヲ尚ヒ志
ハ剛健ナルヲ要ス。是レ我中央大学ノ学風ニアラスヤ。而シ
テ君ハ誠ニ我学風ノ生キタル典型ニテアリキ。君慶応元年四
月五日備中ニ生レ。大正十一年九月八日東京ニ卒ス。年ヲ享
クル五十有八。嗚呼徳人ハ逝ケリ典型ハ亡ヘリ。仁者必スシ
モ寿ナラス。嗚呼君ハ死セリ。嗚呼君ハ真ニ死セリ。哀哉。
中央大学学員同人ニ代リ謹ミテ清酌庶羞ノ奠ヲ以テ君ノ靈ニ
白フス。尚饗。

大正十一年九月十日

中央大学学員総代 法学博士 花井卓藏和南

右の外当日靈前に呈せられたる弔辞は日本弁護士協会、東京弁
護士協会、岡山法政会、同武学生養成会、同青年会、相模協(株)
会、常陸山会、作楽神社保存会、二水会、相弔義会、門下生総
代等十数通の多きに上る今や秋風漸く立ちて寂寞の感愈々切な
り哀痛何の時か尽きん嗚呼哀哉